

「労働基準関連法制研究会報告書」 ねらわれていている労働法制の大改悪

いま、女性や若者を中心に「長時間労働をなくし、自分のための自由な時間を確保したい。大幅賃上げとともに労働時間の短縮を」という要求が高まっています。ところが、こうした国民の声を背を向けるかのように、政府・厚労省は、労働法制を大改悪し、財界・大企業を擁護に沿って「労働者を好きなきに好きなきだけ働かせるしくみ」づくりを着々とすすめています。JMITU中央執行委員長の高江洲洋子さんに青稿してもらいました。



日本金属製造情報通信労働組合（JMITU）中央執行委員長／全国労働組合総連合（全労連）副議長
高江洲洋子

江戸時代の「生かさず殺さず」の復活

厚労省は、2023年に「新しい時代の働き方に関する研究会（新時代研）」を開催、その報告において、①労働者の健康保持（守る）の視点、②多様な希望にこたえる労働規制の在り方（支える）の視点、③「視座」を打ち出し、24年1月には、財界・大企業の総本山である日本経済団体連合会が「労使自治を軸にした労働法制に関する提言（経団連提言）」を発表し、「労使の自治にもとづいて企業の実情に応じて自由に働き方を決められるようにすべき」と主張しました。さらに厚労省は新時代研での提言をふまえた法的検討を行うとして、「労働基準関連法制研究会（労基研）」を立ち上げ、一年間の検討をまとめた報告書を今年1月8日に発表しました。「新時代研報告書」や

使用者に従業員を自由に働かせる権限

こうした財界の要望を踏まえて「労基研」では、裁量労働制など「柔軟で多様な働き方」を使い勝手のよいものにするために、するかが検討されています。



春闘での職場ストライキ集会で（JMITU提供）

「柔軟で多様な働き方」?!

日本では、90年代から「裁量労働制」などが導入されてきました。「裁量労働制」とは、労働者が出退勤時刻を設けず、いつ、どんなに働いても一定の時間だけ働いたこととする。どんなに働いても残業代は支払わず、

働いても残業代がゼロ!

「出退勤時間もなく、自由に会社へ出勤して済ませず、使用者は容赦なく仕事やノルマを押しつけてきます。労働者は自分の裁量で労働時間を決められる」と言っても実際には仕事とノルマに追われる日々です。残業代はゼロ! 成果が上がらな

「法定基準の調整・代替」機能とは、企業の実情に応じて、法律で決めた基準を自由に調整・代替できるようにすることです。すなわち、裁量労働制など対象業務や導入要件、手続などの法的な規制は全部なくして、従業員代表との協定を結べば、自由に裁量労働制を導入できるようなしくみにしようとする。

「1日7時間・週35時間」労働時間短縮こそ

従業員代表との協定さえあれば自由に「裁量労働」を導入できるようなれば、これまで導入できなかった職場や業務も一気に裁量労働制がひろがるでしょう。そうなるべく、残業代を支払うことなしに企業が好きなときに好きなだけ労働者を働かせることができ

るようになります。憲法27条2項では「賃金、就業時間、休息その他の勤労条件に関する基準は、法律でこれを定める」と定められています。また、労働基準法1条は「労働者は、労働者が人たるに値する生活を営むための必要を充たすべきものでなければならぬ」として、これを「労働条件の最低規制」といいます。「労働条件の最低規制」を骨抜きにしようとするのは、「1日7時間・週35時間労働」を柱に労働時間を抜本的に短縮させ、ジェンダー平等、人間らしい労働を求めると運動をひろげましょう。

女性 & メディア

隔月掲載

高江洲洋子 琉球新報社 統合編集局長
琉球新報社 統合編集局長
琉球新報社 統合編集局長



立ち上がる「うない」たち

2023年12月に沖縄県内で米兵による少女誘拐暴行事件が起き、その後、ほかに3件の米兵による性暴力事件が発生した。米兵による相次ぐ性暴力事件に抗議し、日米両政府に再発防止を求める「県民大会」が昨年12月22日、沖縄市民会館で開かれた。幅広い世代の2500人超（主催者発表）が集まり、事件を「うない」の声で上げた。「うない」は「あなたの悲しみは私の悲し



ミモザに見立てて会場に展示された来場者からのメッセージ—2024年12月22日、沖縄市民会館（大城直也撮影）

み。大会では登壇した人々が口々に、被害者の痛みを自分事としてとらえ発言した。沖縄では米軍や米兵による重大な事件事故が起きると、抗議し、再発防止を求める「県民大会」が開かれる。過去の県民大会を主催するのは主に政党や労働組合だった。しかしこの県民大会は「県女性団連絡協議会」（女団連）が呼びかけ人となり、加盟・賛同団体が実行委員をつくり新たな形で開いた。沖縄の古い言葉で姉妹を指す「うない」が立ち上がった。従来のような形式にならなかつたのは、県議会が組織としての参加を見送ったことが一因にある。これまでのような発言者の

大半を男性が占めた県民大会とは趣が異なつた。多くの女性が登壇し、発言した。拳を上げて「ガンパロー三唱」による締めくくりはせず、この県民大会は総論、心を合わせて手をつなぎ平和を求める「ゲ・サラ」を合唱した。誰でも参加しやすい工夫がほどこされていた。会場に入りきれない人が訪れ、ロビーで見守る姿もあった。若い世代に参加のきっかけを聞く「自分だったかも」といふ声も聞かれた。「うない」といふ声も聞かれた。安全な暮らしを送る権利すらままならない沖縄。広大な米軍基地を囲む、米軍関係者と隣り合わせの生活を強いられる沖縄。望ましいのは県民大会を開かなくてもいい安全な社会。しかし願ひ通りにいかない。沖縄の現実を直視する気がめいりそうになる。それでも次の世代に安心な暮らしをつくるために立ち上がった「うない」たち。ここに希望を見いだしている。

ホットライン

岡山

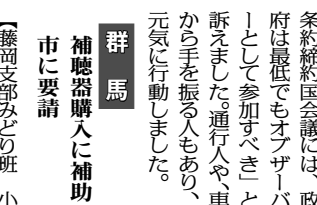
【高梁支部】3年前の「核兵器禁止条約が発効した日」を記念して1月22日、市内国道沿いでスタンディング共同行動をしました。



交代でマイクを持ち▲岡山

群馬

【藤岡支部みどり班】小まは産直品を使ったおにぎり、豚汁、サラダをおいしくいただき、産直運動やスーパーからお米が消えた騒動の話などをおしゃべり。



交代でマイクを持ち▲群馬

千葉

【千葉支部 田桑智恵】次世代メンバーの、子どもがマイクに興味あるけど、安全なものを使っほしいと参加できるから、親子で参加できる美と平和タイムを計画。おいしいものも食べよう!と、産直運動も合わせた「もぐもぐらセミナー」を開きました。



スキんケアを教わった▲千葉

愛知

【刈谷支部 宮田和江】昨年12月15日、市の重原市民館を全館貸切で第8回新婦人まつりを開きました。

新潟

【新潟支部はなかいとう班 立石由美】恒例の書き初め大会で、みんな思い思いの字を書きました。ババ、ママの作品もありました。みんな大きくなりました。いつも掲示してくださる背の高いパパが都合でこられず、かわりに中のお兄ちゃんがいすいすいと掲示しました。赤ちゃんのときから、はなかいとうの仲間です。



「実況者」は右から3番目▲新潟

兵庫

【須磨支部 内藤雅恵】1月8日の「歌う会」で今年の小組がスタートしました。50人ほど集まってピアノ伴奏でリクエストに応じて歌います。「寒いあき」冬の星座」などだけでなく、「早春賦」など春を待ちわびる歌も。今年は神戸で日本のおたごえ祭典があります。メンバー全員が祭典Tシャツで気合いを入れています。



うたごえ祭典のTシャツで▲兵庫

長崎

【長崎支部みどり班 原田成子】月1回第3日曜日読書会を開いて20年になります。メンバーは10人です。



ゲストも参加。新年会▲長崎

【通信をお寄せください】各地のとりくみを300字程度で、写真を添えて送ってください。編集の都合上、文章を短くする場合もあります。◆支部・班・小組名、投稿者の氏名、電話番号を明記してください。掲載分にはクオカードを当選します。通信はEメールでも受け付けています。アドレスはs-press@shinfujin.gr.jp 郵送は〒112-0002東京都文京区小石川5-10-20新婦人しんぶん編集部「ホットライン」係

編集部メールアドレス s-press@shinfujin.gr.jp